研究のまとめ　－その成果と今後の課題－

私たちは本年度子どもたちの実態から２つの変化に注目し、実践を重ねてきた。

それは、「自分の願いやめあてをもって遊びを追求していく力が弱くなってきたこと」と「友だちとかかわる力の個人差が大きくなってきたこと」である。このような変化の背景には、社会の変化、家庭生活の変化等がある。

そこで、私たちは、今年度の研究をすすめるにあたって保護者対象にアンケートを実施し子どもを取り巻く環境の状況や変化、保護者の願い・思いにより迫っていこうと考えた。そして、アンケート結果より、保護者が、友だちとのかかわりあいの中で気持ちを受けとめ合い、心通わせ合って生きていってほしい、という強い願いをもっていることをとらえた。また、子どもたちの地域の友だちとのかかわりはやや薄い、という実態や保護者が不安や悩みを保育者に相談するのをためらっている傾向もとらえた。

私たちは、社会情勢、子どもの実態、保護者の願い、保育者の願いを考え合わせ、

(a) 「自分の願いをもって遊びを追求していく姿や力」

(b) 「いろいろな友だちの思いやよさを受けとめ響き合って生活していく姿や力」

を育てていくための環境の構成や援助のあり方を実践を通して探り、下記のようなことが大切であると捉えた。

1．(a) 「自分の願いをもって遊びを追求していく姿や力」を育む環境の構成と援助について

① 保育者との信頼関係を培っていくこと（担任が子どもたちの寄り所となれるように）

② 子どもが自分の願いを表してきた「機」をとらえ、実現するよう援助していくこと

③ 子どもが表してくる願いを、期にふさわしいものかどうか吟味しながら援助していくこと。

④ 活動を共有していく過程でそれぞれの子どもで願いや考えが異なる時、互いに主張できる場面を保障する。

2．(b) 「いろいろな友だちの思いやよさを受けとめ響き合って生活していく姿や力」を育む環境の構成と援助について

① 一人一人の思いを丁寧に受けとめながら、保育者との信頼関係を築いていく。

② 一人一人が友だちとのふれあいのなかでどのような経験をしているのか見つめる。

③ 友だちとの気持ちのぶつかり合いの中で思いを素直に伝え合い、感じ合い、歩み寄っていく過程を大切にする。そして、その過程の中でその場で何を経験させたいのか瞬時に判断して援助したり、一時的な援助にならないように長期的に育ちを見通し、子どもにとってよりよい育ちにつながるよう援助したりしていく。